

学校教育目標：光と恵みと力の旭南 ～「旭南行動人」の実現を目指して～



校報 旭南

第10号

秋田市立旭南小学校

令和6年12月2日

文責：校長 木谷光男

深め、広げたい感性や思考

初霜・初氷があった11月14日（木）、透き通る青空が広がっていました。その青空と前庭の紅葉した木々のコントラストが美しく（木々の間から見える青空もイチョウの形）写真に収めました。それから1週間もたたないうちに、赤や黄色に色づいた葉はひらりと舞い落ち、木々の枝が顔を出していました。

子どもたちは、「つい最近まで、いっぱいいついていた（イチョウの葉）のに、一挙にどさっと落ちてしまった。」と、季節の変化を感じ取っていました。また、「晴れた雲のない朝は、とても寒くなると聞いたことがある。」「校長先生、吐く息が白くなったよ。白いのはきっと、水蒸気が関係していると思う。雲が白いのも関係ありそう。」と自然現象と科学を結び付けて思考する子どもの姿も見られました。子どもたちの五感を使って感じ取る豊かな感性、そして、疑問を知っている知識と結び付ける子どもなりの思考を大切に見取り、広げられるようなかかわりをしたいものです。



<11月14日(木)>



<11月20日(水)>

見えないことに思いをめぐらせる



旭南小学校は、秋田市内の中心に位置しながら、大きなグラウンド、体を動かせる前庭・中庭などがある広大な敷地に、たくさんの木々があります。当たり前のように何気なく見ている木々ですが、私たちに季節感を感じさせてくれたり、心を癒し豊かにしてくれたりしています。

しかし、そのような木々も、私たちに苦悩を与えるときがあります。それは、落ち葉の処理です。そのままにしておくことで、近隣の方への迷惑や排水管のつまりなどにつながります。

11月20日（水）は、子どもが「一挙にどさっと落ちてしまった。」というように、驚くほどの落ち葉が校地内の全てに見られました。しかし、前庭の落ち葉は、数日中にきれいに処理されていました。日頃から校地内の環境を整えてくださってる佐々木技能主事が処理してくださっていたのでした。感謝と労いの言葉をかけながら、落ち葉処理の状況を聞いてみると、「前庭・中庭・グラウンドでは、本格的な冬になるまでに、次々に落ち葉がたまる。天気と子どもたちの活動していない時間を見極めながら、これから長く落ち葉処理作業をしていく。」と話してくれました。落ち葉は70Lのごみ袋で10袋を数える日もあるそうです。

気持ちよく学習したり、遊んだりできるのは、佐々木技能主事のように、見えないところで尽力してくださっている方のおかげと、改めてその仕事に敬意を示したところでした。学校は、先生以外、給食の調理、図書館の本の整備、トイレ掃除をしてくださってる方など、いろいろな方のおかげで成り立っています。私たちの暮らす地域・社会も同じです。そのような人に思いを寄せ、感謝しながら生活できる子どもたちを育てていきたいと考えています。



子どもと先生とでつくり上げる

学校では、子どもたちが生き生きと学ぶことができるように教職員が、互いの授業を見合い研修をしています。研修会における3つの学級の様子を紹介します。



1年生、算数科「たしざん」では、「10のまとまりに着目し、繰り上がりのある加法の計算の仕方をブロックや図、式などを用いて考える。」学習をしました。問題は「 $3+8$ の計算の仕方をお話にしよう」です。

「鉛筆の持ち方が上手だね。」子どもたちを褒める先生の言葉、「お友達に教えてあげてもいいんだよ。」先生の助言が安心して楽しく学ぶ環境を作り、子どもたちは、優しい表情で生き生きと学んでいました。

「ぼくは図で考えてみようかな。」「私はブロック！」これまでの学習で学び方が身に付き、自信をもって学習に向かう子どもたち。そして、グループで考えを伝え合いました。友達の説明する様子を汲み取りながら、説明を助けようとする子ども。互いを感じ合い、大切にしようとする子どもたちの関係も見られました。グループでの活動を通して、説明に自信をもった子どもたちは、モニタを使いみんなの前での説明をします。「8を7と1に分けて10のまとまりを作ります。」「3を1と2に分けて10のまとまりを作ります。」友達の説明を聞いて、様々な方法があることを知った子どもたちでした。



4年生、体育科「フラッグフットボール」では、「ボールを持っていない人の動きを生かした突破のために、考えたことを友達に伝える。」学習をしました。「フラッグフットボール」は「アメリカンフットボール」に似ています。ボールを持った人が両腰に付けたフラッグを敵に取られることなく、敵の陣地に深く移動できれば、高い得点を得ることができる運動です。



「今のブロックよかったよ。」「すごい。」「〇〇さん、得点を取ったね。」子どもたちの動きのよさや成長を褒めるゲーム中の先生の大きな声や作戦

タイムでの先生の笑顔が、「私はこっち、〇〇さんは向こうを走ってね。」子どもたちの友達と作戦を作り試す楽しさや「〇〇さんのブロックで、初めて得点することができて最高！」子どもたちの運動することへの自信や喜びをさらに高めていました。

また、「ぼくは、向こう側で審判をするね。」と自然に出る子どもたちの声。ゲームでプレイするだけでなく、点数係、審判係などの役割分担もしています。学校の体育だけでなく、生涯にわたってみんなで楽しくスポーツをするための素地ができあがっている子どもたちでした。



6年生、算数科「比」では、「部分同士の比が分かっているときに、全体の数量から部分の数量を求める仕方を考える。」学習をしました。問題は「当たりくじと、はずれくじの数の比が3:7になるようにくじを作ります。くじの数を全部で120枚にするとき、当たりくじの数は何枚にすればよいでしょうか。」です。

これまでに学んだことを生かして問題を解こうとする子どもたち。しかし、問題文にはない全体量(120枚)の比の割合である10が出ません。さすが、日頃



頃から子どもたちと学びをつくり上げている先生です。グループでの話し合いを通して考えを深める予定を、急遽、自由に考えを交流する場に変更。「〇〇さんの考えを聞いてみたい。」「〇〇さんに教えてもらいたい。」子どもたちの内なる思いが叶い、「なるほど分かったぞ。」と子どもたちの表情が一変。その後、子どもたちのつまずきや行き詰まりを取り上げ、意見交換を通して問題解決し、練習問題を意欲的に解く子どもたちの姿がありました。「友達に教えてもらったから分かってうれしかった。」の振り返りに協働して学びを深めた実感が込められていました。



※旭南小学校ホームページ、画面上部の校報を開いていただくと、カラーでの写真をご覧いただけます。